

おもちかえり
2017年4月23日

1) 預言者アモスは羊を飼う牧者であり、農夫でした。彼は預言の専門家でもなく、祭司でもありませんでした。なぜ彼は「ししがほえる、誰が恐れなくていられよう。主なる神が語られる、誰が預言しないでいられよう」(アモス3章8節)とあるようにはばかりことなく主の言葉を民に伝えることができたと思いますか。

2) アモス8章5節－6節を読みましょう。イスラエルの民は安息日に何を考えていましたか。この思いは私達の礼拝中の心とつながることがありますか。礼拝中にあなたの心は主にだけ向けられていますか。

3) アモス2章6節－8節から当時のイスラエルの民のどんな状態がうかがい知れますか。この事と今日の私達の世界とに共通することは何でしょうか。

4) アモス2章14節－16節を読みましょう。イスラエルはこの時、しばしの繁栄の中にいました。しかし、それをつかの間でやがてこのような時がくるとアモスは言っています。この預言は何を語っていますか。私達の繁栄とか力というものは確固たるものですか？

5) あなたは心に渇きを覚えたことがありますか。満たされない心を何かをもって満たそうとしたことがありますか。何をもってあなたは心の渇きや満たしを得ようと思いましたか。それは有効でしたか。

6) アモス8章11節－12節を読みましょう。ここには神様が送られるどんな飢饉が書かれていますか。なぜ私達には神の言葉が必要なのでしょうか。

7) 詩篇19篇1節－4節を読みましょう。ここからこの世界は主の言葉で満ちていることが分かります。私達はもししたらこの主の言葉をキャッチすることができますか。

アモス9章8節－15節にはイスラエルの回復が書かれています。これまでのイスラエルの歴史、そして現在のユダヤ人の姿をみる時にあなたは神の存在をどのように感じますか。